



2002年 5月 スイスオープン

今回私がスイスにサポートスタッフとして同行することになったのは、修学旅行で海外に行くような時代に27歳にもなって未だ空飛ぶ乗り物に乗ったことがないので、一度は海外に行ってみたくてという浅はかな考えから志願したことがきっかけでした。私の所属するライフルクラブ「ブルズアイ」にはパラリンピック日本代表選手である廣田武司さんがおられて毎年のように海外遠征に行かれています。ライフル射撃というスポーツは荷物が大変多く、海外遠征ではサポートをする人間がどうしても必要となります。そこで、体力にはそこそこ自信があり、先輩である廣田さんに常日頃から胃食銃(?)お世話になっている私は、同行するスタッフを求めている廣田さんに自ら願い出たのでした。

これから本文をお読みになる方へ

海外旅行と食べるのがメインで、射撃は「おまけ」という魂胆でスイスに行きましたので、スイスオープンについて本文ではごく簡単にしかお伝えできません(ただし、自分がサポートスタッフであることは忘れていなかったつもりです)。したがって、スイスオープンについての詳細はコーチとして同行した田中辰美さんがライフルスポーツに投稿されますのでそちらをご参照ください。

2002年 5月 スイス美食紀行(おまけ) スイスオープン

手のかかる子は可愛い?

5月6日~13日のスイスオープンに同行するためゴールデンウィーク最終日から1週間会社を休むことになるので上司には早くに許可を願い出ました。仕事だけの地味な上司とと思っていましたが、私がスイス行きのことを伝えると、自分が若かった頃に就職1年目で「クビになっても構わない」と上司の脅しをはねつけてアメリカにトランペットを吹きに行ったことをしみじみと(?)語り許可してくれました。その上司にはいつも迷惑をかけ、おまけに、顔の横に10m 標的を貼ってイメージトレーニングの真似事をしています。課長って前もうちよっとふっくらしてなかったっけ?」と言うと「君がやつれさせてるんや」と同僚から言われてしまいました。手のかかる子は可愛い」と言うけれど...

パスポート

海外が初めての私はパスポートを持っていませんでしたが、スイスに同行することは昨年の暮れぐらいから決まっていたので、まだまだ申請には余裕があると思っていました。しかし、時の経つのは早く、いつのまにか4月になっていました。仕事のあいた日によろしく申請に行き、パスポートを受理したのは出発の10日前ぐらいだったと思います。パスポートは安い5年用を作りました。

急性胃腸炎

ゴールデンウィークに入った4月28日から広島で行われた西日本春季大会に出場し、広島観光をしました。一緒に行った仲間と美味しいものをたくさん食べて帰ってきましたが、その3日後から

いから今まで経験したことのない体調の悪さに見舞われました。もうすぐスイスまで行かなければならないから治しておかないと大変だと思い病院に行くと「急性胃腸炎」と医師から言われました。4日後からスイスに行くという私に「え～」とあきれた女医から予備も含めて薬をもらい、出発前日にはなんとか物が食べられるようになりました。広島に行った際、宮島の仔鹿を「美味しそう」といった罰があたったのかもしれませんが。

出発

初めて空港に来て大型機をこの目で見たときに思い浮かんだのが「白鯨」。エイハブ船長談「わしが追い求めたモービーディックがいっぱいおるわい」

みんなとは10時待ち合わせでしたが、余裕を見て30分前に着きました。タクシーからおりてロビーに入ったものの、どこで何をやっていのかさっぱりわからず途方に暮れていました。京都から一緒にタクシーに乗り合わせてきた親子らしき二人(年のいった母親と40ぐらいの息子さん)も同じエールフランス291便に乗ってドイツなどを旅行されるとのこと。息子さんに今回のスイス行きの目的を述べ、仲間との待ち合わせ場所であるエールフランス団体受付カウンターの場所を教してもらって別れました。

とりあえず旅なれているふうを装って、外国人の隣に座って雑誌を開く。10分、20分経ち、そして約束の10時になってもみんなの姿は見えない。空港内に熊(廣田さん)が歩いていたらすぐに見つけられるだろうと高をくくっていたが、次第に心配になってくる。場所に間違いのないのだから、こちらがうろろうしないほうがよいと思いじっと座っていることにした。個人受付を済ませて戻ってきた先ほどの親子が私の焦りの顔を見たのか、近づいてきて「一緒に探してあげましょう」と言ってくれた。団体受付カウンターはいくつかあるということで、他のそれらしい場所にしてみると、なぜか、インターネットで見たことのある更家さんらしき人ともう一人車椅子の女性がいたので、「どうしてここに更家さんがいるのだろう。一緒に行くことになったのかな」と思いつつ近づくと、もう一人の女性もどこかで見覚えが、、、。「あっ、この人が鈴木ひとみさんかー。うーん、モデルをされていたひとみさんにしてはちょっとふっくらされてるなあ。」と思い、「失礼ですが、鈴木さんでしょうか？」(私)「いえ、違います。」(木下さん)「射撃で廣田さんとスイスに行く竹井ですが、、、。」(私)「廣田さんたちは向こうにいますよ。」(木下さん)、ということで、やっと今回の旅の仲間である井出さん、田中さん、廣田さんに合流。後で思い出したのですが、鈴木さん夫妻は私たちよりも一週間先にスイスに着いていたのですが、このときは動揺のため忘れていました。また、更家さんと木下さんは私たちの見送りのためにわざわざ駆けつけてくださったのです。ようやく一安心し、助けていただいた二人の旅行者に御礼を言って別れました。



Here We Go !...でも寝てる筆者

榎風沐雨さん(ブルズアイ事務局長)の命により廣田さんは普段見なれた迷彩服ではなくジャケットを着てきました(どちらにしてもカタギには見えない)。

みんなでワイワイやっているうちに田中さんがせっせと手続きを終え、しばらくしてから、手荷物検査を受けに行く。今から考えてみると、この手荷物検査が廣田さんのこれからの一週間を予言したものといえます。

田中さん、井出さん、そして私と何事もなく通ったのですが、廣田さんは手荷物に工具を入れていて係官から指摘されました。この時点でもうどうすることもできず万事休す。工具は廃棄処分となります。廣田さん、なんかボソボソ言い訳していましたが、、、。

いよいよエールフランス 291 便に乗り込む

私と田中さんが隣り合った中央座席で、井出さんと廣田さんは少し離れた窓際の座席でした。私にとっては初めての空の旅で外を眺めたかったのですが中央座席だったのでいつ飛んだのかよく分かりませんでした、残念。機内で読もうと持ってきていた文庫本は手荷物に含めるのを忘れていて、残るは飲むことと食うことに精神を集中するのみ。欲を言えば餃子とか焼肉が食べたかった。次回行くときは手荷物に餃子持って行こつと。

ひたすら座り続けて、ようやくロシアとヨーロッパを分けるウラル山脈まで到達。ウラル山脈からは乗り継ぎのパリ・シャルルドゴール空港へは心理的に早く着きました。さて、ここでも廣田さんはやってくれました。税関の金属探知機に当たりまくり。これだけ当たる人も珍しい。係員たちは苦笑していました。

シャルルドゴール空港から中型機に乗り換えて2時間程度でチューリッヒ空港に到着。現地では夜のはずなのですが夕方5時か6時ぐらいの明るさでした。

荷物受取所でハプニング発生。井出さんの荷物が届いていない。後日ホテルに届けるということで、私たちはホテルのあるラッパ スピルへと向かいました。これから一週間滞在することになる「スピアホテル」に到着したのは現地時間23時30分、クタクタの私たちは空腹に耐えながら眠りにつきました。スイスなのでコンセントも無いような所に泊まるのかと思っていましたが、設備が整っていて安心しました。



スピアホテル



部屋から見たラッパ スピル駅

第一日目

6時30分起床

朝起きてトイレで用を足し、さあ流そうと思ったもののレバーなりボタンが見当たらない。同室者が廣田さんだとしてもブツをそのままにしておくのは、さすがにマズイ。必死でそれらしいところを手当たり次第押しまくって、ようやく流すことに成功。用を足すには頭の柔軟さも必要。

朝食はホテルのバイキング。パン、ソーセージ、ハムが美味しくて毎日朝食が楽しみでした。とにかくお腹が減っている私と田中さん(機内でやたらと空腹を訴えていました)は朝から飢えた犬のようにむさぼりました。

ところで、私は廣田さんと同室でしたが、夜中、廣田さんはやたらと暴れていました。廣田さんいわく俺は寝てる時も闘っている」。さすがブルズアイ。

それから、毎朝起きてから廣田さんはアニメを見ていましたが、スイスでも日本アニメは人気が高いようです(クレヨンしんちゃんがドイツ語で話していました)。

今日は大会のほうでは予定が無いので、一日観光することとなりました。

フェリーでチューリッヒまで行くことにしましたが、その前にラッパースピルをしばらく散策。特にこれといったものは無い平凡な町。とにかく犬を連れてくる人が多く、道の所々に犬のフンを捨てるためのボックスが郵便受けのように立っていました。





「あやしい生物発見！」

10時ぐらいにフェリーに乗り、チューリッヒへ向かう。

気温は心地良いが、日差しがとてもきつい。日焼けするとすぐに赤くなる私と廣田さんは今日一日で真っ赤になりました。2時間近く乗っていたフェリー、最初は船上から見える美しい景色にウキウキしていましたが、変化の無い単調な景色に次第に眠くなり、みんな無口になりました。



望郷の念に浸る田中さん「遠くまで来たなあ...」

12時すぎにチューリッヒに到着して川沿いにあるレストランで食事。昼食後あてもなくぶらぶらと市内観光。車があれば良かったのですが、榊風沐雨さんの「スイスは電車で十分動ける。」という言葉に田中さんが従ったため、どこか無駄の多い観光でした。田中さんと廣田さんは榊風沐雨さんのアドバイスに従ったことをめぐって「またや、あの人(榊風沐雨氏)のアドバイスに従ったらアカ

ンて何回も言ってるのに」(廣田氏)、'今回だけや」(田中氏)、'いつもや」(廣田氏)などと言い争っていました。3人とも無責任だ。

今日の夕食は先に到着している鈴木さん夫妻と一緒に食べることになっていたので5時前にラッパ スピルに戻りました。

夕食はホテルの近くにあるレストランで食べました。メニューを見てもドイツ語で書かれていてさっぱりわからず、あてずっぽで注文した私に来た皿には薄っぺらいハムが数枚、、、なにこれ(まだ何皿か出てくるものと本気で思っていました)。ドイツ語ができる鈴木さんのご主人に助けをもらえばよかったと悔やみつつホテルに帰りました。先ほど飲んだワインと時差に慣れていないことで眠たくてしょうがない私は当然寝るものと、ホテルの自室で入浴の準備をしようかと思ったとき、鈴木さんのご主人がウイスキーとコップを持ってやって来ました。嫌な予感。田中さんもやって来てウイスキーを生で飲み合流を祝うことになりました。お互いの自己紹介をしながら、出発からの出来事を話していましたが、気がついてみると先ほどまでにぎやかに話していた田中さんは私のベッドで大の字になっていて、突ついてもつねっても動かなくなり、廣田さんもかなり酔いがまわったあぶない状態となっていました。結局、鈴木さんは二人をつぶして微笑んで部屋を出て行きました。田中さんが私のベッドから動かないので、井出さんの部屋で寝させてもらいました。

2日目

今日は Weapon & equipment control (銃器・用具検査)および Open training (公式練習)の日。

午前中は空いていたので各自自由行動となりました。私と廣田さんは再びラッパ スピルを散策。

午後からの Roggennacker 射撃場で行われた銃器検査は問題なく終了。ここで、井出さんの名前が「dex」としてエントリーされていましたが本人は大変ご満悦。今後、海外での試合では「dex」と名乗るそうです。

公式練習はまず SB から。周りにいた選手は廣田さんが使用していた田中さんのカスタムメイドストックの配色(日本国旗を思わせる赤と白)を珍しそうに見ていました。プロ ンが専門(?)の井出さんは余裕で、練習もそこそこ私に「SB撃ちたかろ?」と言って銃を貸していただきました。実のところ、井出さんは射撃よりも山に行きたかったようで、冗談で「井出さん明日試合やめて山に行きませんか?」と私が言うと本当に行きそうな調子でした。

なお、上の階で軍用銃中心の大口径の練習が行われていました。みんなイヤープロテクターをしていましたが、めったに聞く機会が無いので生で聞きました。胸に響く心地よい音でした。

次にARの練習に Indoorholl Steg、学校の体育館に行きました。

現在AR特訓中の私はみんなの練習を見て、いてもたってもいられず井出さんの銃を奪い練習しました。それを見た鈴木さんのご主人も参戦し、二人で井出さんの標的をプラネタリウムのようにしてしまいました。井出さんごめんなさい。井出さんにとって立射の試合は初めてということで田中さんから姿勢や銃のセッティングについてのアドバイスを受けていました。



Indoorholl Steg



左から鈴木さん、廣田さん、井出さん

なお、この日に田中さんは Technical meeting (技術会議) に出席。

一通り練習を終えて、Indoorholl Steg 近く中華料理店で夕食を食べました。スイスに来て初めて「食べた」と思える食事でした。私は相変わらずこの時間になると眠たくなり、ホテルに帰ってからビールを飲むと言うみんなとは別に、さっさと寝ました、23時。明日は試合なのに、、、。

3日目

今日は午前中が廣田さんと井出さんが出場する SH1 R1 (エア立射) と R3 (エア伏射)。午前中に行われた立射、スタッフの私は選手が試合だけに集中できるようにと気合が入っていましたが、肝心の選手のほうに昨夜の疲れが残っていたのか廣田さん 561、井出さん 521 という見えていた私たちまで気が重くなる結果。



見よ、この勇姿！しかし、この数十分後には悪夢が、、、。



田中さんと審判

まだ、午後の伏射があるので、とにか〈昼食を食べました。

そして伏射。スタッフとして迅速に動いていた(と思う)私をよそに、立射の結果でやる気を無くして目がうつろな廣田さん。プレパレーション直前に「たけいー、空気がない！」。も~、@ § 。結果は井出さん 584、廣田さん 582。神経が麻痺していて何も感じませんでした。

試合会場にはドイツの選手が連れてきた犬(介助犬ではありません)だったと思いますが、今日の日本人が見習わなければならない大変行儀の良い犬がいました。ごらんのとおり真っ黒で、廣田さんと「スイスのアトム」と呼んでいました。人懐っこくてみんなの人気者でしたが、他人になでられながらも主人を目で追っているところには胸を打たれました(笑)。

試合でパンパン音がしているなか気持ちよさそうに寝ているスイスのアトム。自分が射撃している夢を見ているのでしょうか…。



本日の夕食は立射で思ったより良い点数の出た井出さんのオゴリ。鈴木さん夫妻に見つけてもらったチューリッヒのレストランで食べました。旧兵器庫だった建物で機関砲などが飾られています。料理は大変満足のいくもので、初めてこっちの食事を食べた気がしました。人のオゴリには遠慮しない私と廣田さんはデザートまでご馳走になりましたが、ちょっとみんなの目が冷たかったような気が、、、でも、人間、食べると元気が出るものです。

4日目

今日は鈴木ひとみさんが出場する SH2 R4(エア立射)と廣田さん、井出さんが出場する R6(SB プロ-)。鈴木さんの試合は射場が別なので残念ながら見ることはできませんでした。鈴木さんの結果は 576(11 位)。ご本人は納得のいかないようで来年へ向け雪辱を誓っておられました。

さて、廣田さん、井出さんが出場する R6(SB プロ-)ですが、はじめはスタッフとしてもう何の望みもないと思っていました。何年もやってきた立射である点数なのだから、はじめての SB プロ-などあてにならないと。ところが、蓋を空けてみると廣田さん 572 で MQS 獲得。あのお腹はやっぱり伊達じゃない。そのうち廣田ルールというのができて、射撃ブーツと同じように腹から何センチ肉がはみ出したら違反というのになるかも。



井出さんはあまり振るわず 549 でした。

とにかく一つ良い土産ができて気が軽くなりました。試合後、私と、井出さん、鈴木さんご夫妻、廣田さんでユングフラウのほうへドライブに行きました。田中さんは山より射撃が見たいということで残る。1時間半ぐらいでユングフラウの望めるカフェに到着、、、特に何も書くことはなく、ごらんの



通りの山です。 やっと冥土の土産ができた」と井出さん大喜び(こんな事は言われてません)。ラッパ スピルに戻り、夕食はみんなでメキシコ料理。生演奏があったりと店内の雰囲気自体も盛り上がっていましたが、廣田さんの MQS 獲得のうれしさも手伝い私は気持ちよく酔うことができました。うーん、、、サウダーデを感じる今日この頃。

ところで、鈴木さんご夫妻は明日の早朝帰国されるので一緒にするのは今日が最後でした。お二人がおられたことで随分と助けられ、楽しい滞在となりました。本当にお世話になりました。



気心の知れた者同士の旅も良いものですが、知らない者が同じ目的のために集まるというのも良いものだなあと感じている今日この頃です。

5日目

日本選手団の試合も昨日で無事全て終わり、大会で私たちに関係のあるのは夕方からのパーティーを残すのみとなりました。それまでは自由なので私と井出さん、廣田さんはチューリッヒに出かけることにしました。田中さんはやはり試合観戦。ツアーコンダクターとして二人を連れて、どこに行こうか検討した結果二人の希望もあり銃砲店を探ることになりました。Tourist information で銃砲店の所在地を聞くと、駅から歩いていけるところにあるので、とぼとぼ下町風の通りを歩いて行きました。すんなり見つけれられたものの、あろうことか閉まっている。あきらめきれずに店内を覗いたりしていましたが開かずの扉。それでも未練があって、近くにあったトイガンの店長に他の銃砲店を教えてくださいました。チューリッヒ駅から路面電車に約30分乗って見つけた銃砲店はまたも閉店。悔しいけど次の機会ということになりました。帰国してから地図を見てさらに悔しくなったのは銃砲店の為に大きな博物館や美術館を素通りしてきたことです。



パーティーの時間も近いので仕方なくラッパ スピルへ戻りました。

パーティー会場で、各国選手・スタッフ一堂に集まって初めてこんなにいたのかと思いました。私たちの席はニュージーランドとポーランドに挟まれた席でした。国民性が出るのかニュージーランドのテーブルは賑やかでしたが、ポーランド人たちは物静かで控えめでした。ここで、恒例の折り紙ショーが始まりました。みんな物珍しそうに眺めていました、私もみんなの器用さに感心して眺めていました。

ところで、食事のほうは最初に出てきたサラダが美味しかっただけで後はちょっと期待はずれでした。あまり口に合わない料理が出て残していたら、



ロシア選手団と筆者

そこに給仕のおばさんが来てドイツ語で何か言っているのを、「お下げしてもいいですか?」と聞いているのとも思いますが、英語で「はい、お願いします」って感じで答えたら、しばらくしてなんと、その給仕が同じ皿を持って来るではありませんか!これには周りにいた外国人みんなに大笑いされてしまいました。日本人丸出しですね。

ステージで演奏が行われ盛り上がっていましたが、気がついてみると井出さんがいなくなっていたので、どこに行ったのかと思ったら、あちこちでピンバッチの交換をしていました。言葉がわからないのに各国の選手と意気投合していました。

パーティーも終わりに近づき、三々五々帰り始める国が出てきたので明日の朝早い私たちもホテルに戻りました。

6日目帰国

帰国の日。朝7時30分にホテルをチェックアウト。楽しかったスイス遠征もとうとう終わりました、、、と言いたいところですが廣田さんにはもう一つとどめが待っていました。帰りのエールフランスでとんでもない額の荷物超過料金が発生。確か廣田さん17万。1kgにつきファーストクラス運賃の1%だとか。その上、機内食を作っている会社がストライキを起こして、ろくな物が食べられませんでした。踏んだり蹴ったり。

とにかくトラブルの多い遠征でしたが、みんな体調を崩すことなく過ごせてよかったです。

5月13日8:00関空着、よく晴れた暑い日でした。

初めての海外で今回のような貴重な体験ができたことを日本選手団の皆さんに感謝しています。

田中さんは私たちが何も考える必要がないほど手際よく私たちの面倒を見てくださいました。

ドイツ語のお上手な鈴木さん(ご主人)には食事の時いつも頼りっきりでした。

紅一点、鈴木ひとみさんのおかげで料理が美味しかったです。

コーラ好きの井出さんはいつも私たちの気付かない細かいところまで見ていました。

廣田先輩、毎年同行できるよう養子にしてください!

おわり



ダンディーな田中さん



最終日のパーティー



抜けた歯をもって笑顔の井出さん



食い荒らされたテーブル



ラッパースビルにて（筆者：右）